



Title	序
Author(s)	足羽, 進三郎
Description	高倉新一郎の肖像あり
Citation	北海道大学農経論叢, 20
Issue Date	1963-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/11297
Type	other
File Information	20.pdf





高倉新一郎教授

序

北海道大学教授農学博士高倉新一郎先生は、昭和37年で在職35年をむかえられました。わたくしどもはかねて先生の長年の御薫陶と御貢献にたいし、感謝の意を表したいと考え、本誌で記念号発行を計画しておりました。諸種の事情で刊行がおくれたのでありますが、本号をもって実現のはこびとなりました。これを謹んで先生の座右にささげるものでございます。わたくしどもの微意をおくみとりいただければ幸いです。

先生は大正15年本学農学部農業経済学科を御卒業後ただちに副手、昭和2年助手拝命、昭和11年助教授、昭和21年教授となられ、植民学講座を担当されました。昭和28年経済学部に移られ経済学第2講座担任となりましたが、農学部は併任で拓殖学講座を兼担され、昭和37年農学部にかえられるとともに農政学講座を担当今日に至っておられるのであります。この間経済学部長を2期にわたってつとめられました。昭和36年春には外遊の途につかれ、アメリカおよび欧州諸国を歴訪その秋帰朝されました。

先生の研究活動は広般多岐にわたり、その学問への旺盛な意欲と倦むところない筆力は、既に数多くの論文著書となって結晶しておりますが、先生がこれまでもっともちからを傾注されてきたのは、北海道開拓史およびアイヌ政策史の研究であると申せましょう。この分野における資料の発掘収集についての一貫した努力、さらにその体系化にはたされた貢献がきわめて大きいことは、つとに世人の広く認めるところでありましたが、昭和24年道新社会文化賞の受賞はこれをいっそうあきらかにしたものでありました。この分野に関する先生のふかい学殖と識見は、はやくから道史編集や道文化財保護などの仕事に欠くことのできないものとなり、先生の社会的活動をはばのひろいものたらしめてきました。昭和12年本学に北方文化研究室が創設されるに当たっての先生の努力、それ以来その発展のためにつくされた功績も忘れられないところであります。本誌の育成に関しても、その前身たる法経会論叢創刊以来多大のちからを致されました。

先生には近來ますます御壮健で、御専門の研究に精魂をかたむけられ、新しい成果をつぎつぎと発表しておられます。この機会に先生の学連のいよいよさかんなることを祈念するとともに、わたくしども後学のため、ながく御指導た

まわりますようお願いしたいと思います。

1963年10月

足 羽 進 三 郎